

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜 (1階)		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kanietue&JigyouCd=2297200350-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の自立支援に力を入れています。認知症であるからと言って、今まで獲得した力は、発揮できるはずであり、「できる」という視点からアセスメントをし、出来ない部分に着目してその部分のケアを生活支援として行ないます。環境整備では、他者から死角になる空間を設けるなどして、認知症の方に配慮したホーム作りをしています。また職員もご利用者も家族も楽しいホーム作りをめざし、昨年度よりさらに行事に志向を凝らしています。運営推進会議には、前年より、多くのご参加をいただけるよう日程の調整をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の社会福祉協議会の依頼を受け、介護予防体操「ふまねっと」を通じて認知症予防に貢献しています。「ふまねっと」運動は龍山地区で隔月、浜北区で四半期に1回、今後は浜松市南区も予定され、問い合わせも続々とあり、広がりをもっています。また二俣地区には認知症デイサービスが無く、事業所として「共有型デイサービス」を開始したことも地域の役に立つ事業として期待が膨らみます。利用者の目に入りやすい位置に当日勤務の、職員の顔写真と名前が記載されたホワイトボードがあり、その職員が今日「入浴」や「歩行訓練」等「何を担当するか一目で分かる」ようになっている例をはじめ、きめ細かな工夫に秀でている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて唱和している。	面談を通して「理念を行動にどう反映させたいかわからない」職員が多いことが判り、改めて「利用者も家族も職員も楽しいホームづくり」という事業所のテーマを作ることに至り、現場の言動にマッチさせています。ただし、理念そのものの実践についての確認は課題です。	次の段階として理念の具現化を職員間で話し合うことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草取りや、防災訓練に参加したり地域お祭りの青年部や自治会を通して、交流する機会が増えた。	大学生のボランティア訪問や中学校の福祉体験のほか、訪問当日も保育園児が唄や遊戯を披露する姿が在り、利用者が大変喜ぶ様子を視認しました。認知症への効果が期待されるという呼吸法を取り入れたヨガ指導も、地域からボランティアが訪れての開催予定があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防体操「ふまねっ」とを通じて、地域の社協の依頼を受け認知症予防に貢献しながら、認知症の理解をうながしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への出席依頼を多く出すことにより、多くの方が会議へ出席していただけるようになった。情報公開と、意見交換の場として開催し、地域交流の場としてサービス向上に取り組んでいる。	奇数月第3水曜日と定め、開催を確かなものにする一方で、社会福祉協議会や居宅支援事業所と幅広い出席者を得ており、それに伴い専門職への質問や相談も増えています。また現況維持に留まらず、消防署や警察署生活安全課にも誘い掛けをしていることも評価される点です。	家族意見も充実するよう、不参加者へ議事録など情報を届けることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所、消防署など必要に応じて緊密に連絡を取り、協力関係を築く努力をしている。	二俣地区にはない認知症対応デイサービスの補完ともなる「共有型デイサービス」開始にあたり行政と連携できています。概ねが天竜区役所からですが、中区介護指導課も運営推進会議に出席くださっています。天竜区役所には月数回出向き、電話でも頻繁にやり取りがあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会を通じて理解を深め、不適切なケアの具体的な例を掲げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	車輛通行量を鑑み安全第一として1階出入口はセンサーがありますが、家族には了解を得ています。法人主催とともに所内でも年2回研修を実施し、事例検討も併せることで学びを深めています。また事故カンファレンスでは「事故対策と拘束の境界線」を討議することに留意しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ研修会を通じて高齢者虐待の中身について検討し、防止に努めている。また職員の声を聞いたり、無知により、気づかず虐待を行ってしまうことがないよう職員に説明するなど防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業についてはまだ説明できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やその前段階において丁寧な説明と内容を明らかにした書面を交付することにより、ご理解ご納得いただけるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社で行われるご家族アンケートや、ホーム玄関に設けたご意見箱、運営推進会議等において、ご家族の意見を把握し運営に活かす努力をしている。	家族アンケートでは居室清掃に改善点がみられたことから美化委員会を発足させ、併せて清掃に入る時間を見直したり、利用者と一緒に掃除する時間を捻出しています。他にも家族からは質問がある為、今後は家族向けに毎月発刊の「つながり」にも掲載していこうと検討中です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に行事の内容の検討や意見を求め、反映している。	昼食では利用者、職員、管理者ともに食卓を囲み、管理者から職員へもよく声がかかっており、日常的に何気ない場面で意見がでていることが視え、職員からは洗濯機の買い替えなど作業面の効率にもつながる意見がでています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善や職員の福利厚生を改善し、環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議や、ユニット会議、またOJTを通じて、説明するきかいを設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に限らず、ご家族や、以前ご利用のサービス事業所に情報をもらうなどしながら、ご本人理解に努めてごほんにんとの信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困りごとなど傾聴につとめ、具体的なサービスに活かすことができる様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の不安や困りごとなど傾聴につとめ、具体的なサービスに活かすことができる様関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が共有スペースにて他のご利用者とのよい関係を築くことができるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族の状況など聴きながら、ご恩人の勤務表に配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族からご希望をお聞きしながら、人や場所との関係ができるよう支援する。	家族の申し入れで他施設に居る伴侶の元に出かけたり、また偶然、昔の囲碁クラブの仲間と再会したことで「また会いたい」との要望に外出計画を立てています。職員の休憩室を居酒屋に見立てて、酒を嗜む利用者と赤ワインや梅酒で酒盛りをおこなって、意向に副ったこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に注意を払い、席や外出支援などにてご利用者同士が自然といい関係になれるよう努力する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じてご相談いただけるよう配慮しながら、支援する体制を用意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の場面で発していただけたお言葉や行動の分析より、ご本人の意向や好みを探る努力をしている。	入浴や居室で職員と2人きりになれる場面で思いが表出し、「○○が食べたい」といった言葉がこぼれています。また在宅の頃、決まった日に必ず近くの神社にお参りしていた利用者は思い出したように「行きたい」というので職員が同じように参拝できるよう支援している例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、私の暮らしシートなどを活用し、これまでの生活歴や性格や価値観などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの状態やご気分により、自由に過ごしていただけるよう申し送りやバイタル測定ご本人のアセスメントなどを行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ご利用者様の居室担当が作成した気づきシートやアセスメント表を元にカンファレンスを行い、チームとしてご利用者を支援するための計画書を作成している。	介護計画書は3ヶ月で見直し、モニタリングはユニット会議でおこないますが、先んじて居室担当者が「気づきシート」を作成して日々の変化を取り、他にも介護記録や日報を評価材としています。目標に対して「できる、できない」が判別しやすい形式の新モニタリング表を導入しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人記録やモニタリングを毎日行い、ケアの振り返りや職員間の情報共有に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応するよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育円、図書館、公園など把握している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の今までの治療経過の継続、かかりつけ医との関係などから、継続した観察ができるよう家族との連絡を密にしながら、医療支援を行っている。	「今までのかかりつけ医との付き合いを大事にしたい」という考えが家族に伝わってか、協力医に変更したのは18名中5名です。受診介助は1名のみ家族で、あとは管理者または看護師がおこない、急がない状態や薬の変化は毎月の通信欄で報告をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回～3回の勤務時には、看護師によるバイタル測定や測定結果の分析を行い、必要な医療を適切にうけていただけるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院時は、ご家族、病院のSW、NSとの情報交換に努め、必要に応じた支援ができるよう努力している。また病院との関係作りに努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関するホーム内のできることを丁寧に説明に努め、ご家族のご希望、また医療関係者との連携に努めている。	看取りは本人と家族の要望もあって昨年12月に取組んでいます。急変時は無論のこと諸所職員に細かな指示を徹底し、連絡体制も整えていたことから職員の不安を緩和させることが出来ましたが、「看取りを行なっていくか」は今後も引き続き検討案件としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応について会議等において説明し、周知している。またそのケースに応じての対応についてその時必要な対応についてかくにんをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域より、避難場所についての連絡体制が整備され、運営推進会議等にて地域連携のお願いなどを模索している。	今年度から風水害も加え、年2回から3回へと回数増やし力を入れています。昨年12月には7名の利用者、4名の職員が近隣の自治会館まで避難シミュレーションをおこなって地区の防災訓練の参加も果たし、また有事には5名ほど受入可能だということも地域へ伝えています。	「夜間時の対応を想定して確保したランタンをさらに揃えたい」とのことですので、是非実現を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重を重視し、尊厳をもって介護することを重視している。声掛けや、プライバシーに配慮したケアのため、職員同士で注意できる環境について取り組みを始めている。	利用者の選択に対して「ダメ」と言わないことを旨とし、例えば病院受診の会計時では職員が清算する前に、利用者に直接金銭に触れてもらい、自分が払ったという自己効力感をもってもらえるようにしています。また入浴では同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向をきいて差し上げる様、傾聴や受容に努め、ご利用者が選択できるような配慮と支援、また自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務フローなどを見直し、ご利用者のご希望にそえるような支援体制の構築に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みに応じた衣類が選択できるよう支援し、みだしなみを整えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や盛り付けをしたいご利用者が皆参加できるよう配慮し、職員と一緒に配膳できるよう支援している。	食材は地元購入で地産地消に努めています。敬老会ではエビフライや茶わん蒸し、夏祭りは利用者とかレーを作り、誕生会にはシュークリームでタワーケーキにしたりと、行事食も工夫を凝らしています。また週1回来訪の歯科医には口腔ケアの質を褒めてもらえるまでになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の体重測定を行い、また医療情報などを参考にしながら、ご本人の食べられる量や、ADL、可動域など様々な視点から状態把握に努め、必要な支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行い、必要に応じて用具を揃え、その人に合った支援と口腔内観察を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	そのご利用者の歩行能力や排泄機能などアセスメントを行い、安易に紙おむつの使用をせずトイレで気持ちよく排泄できることを重視している。またその支援に努力している。	24時間の簡易排泄チェック表を使用し、水分摂取量とともに把握を図っています。車いす使用の利用者が、適切なトイレ誘導によってリハビリパンツから布パンツ+小さなパットへと向上し、自力でトイレに座れるようになったケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整えるフェカリス菌などを使用しながら医師との連携、また乳製品など取入れたり、適度な運動ができるようプログラムに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、ご本人が入りたくなるような声かけや環境に配慮している。ご本人様の意向に沿って順番や時間など配慮している。	湯は一人ひとり入れ替え、夜間入浴や頻度のリクエストにも応えて、本人本位に取り組んでいます。やや深めの浴槽には補助台を入れたり、移動式の簡易手すりの取り付けが在り、利用者が「楽に」過ごせるようにとの工夫があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の意向に沿った入床支援を行い、ご利用者が安眠安全に眠ることができるよう温度、光などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者おひとりおひとりの薬の内容について薬情書などにて確認をしている。服薬支援は決められた方法にて行い、wチェックの体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の役に立つ喜びを感じて頂きながら、生きる糧にし、保有能力、認知機能の低下を防ぐことができるよう支援している。ストレスの軽減が図られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なるべくご本人のご希望に沿って外出できるよう支援している。必要に応じてご家族にご相談をかけながら出かけられるよう支援している。	春は桜を愛で、夏は潮風に吹かれ、秋には遠足で掛川花鳥園へ、冬は小國神社と、四季を五感で感じることを大切にしたい外出をおこなっています。近隣のスーパーマーケットへ週2回の買い出しのほか、喫茶店へ出かけたり、柿やアイスクリームを目標としたミニドライブもあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者がお金をご自身で払うことができるよう、ご本人に働きかけを行っている。また決まった金額の範囲で自由に使うことができるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者のご希望により、手紙を書いたり、ご家族に自由に話したりしている。またご希望があれば、職員が仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場としてふさわしい明るく清潔な空間であるよう配慮しながら環境整備を行っている。季節感を感じていただけるよう掲示物を変えたり、見当識に働きかける配慮をしている。	ソファで休みたいとの要望に応え、テレビ前にあったソファ2脚のうち1つを窓際の位置に変えています。また藤のパーテーションで仕切りをつくり、職員の目が届きやすく「他の利用者からは目に入りにくい場所に」とし、快適な空間づくりが執り行われていることを確認しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下側にソファを置いたり、廊下の途中で休憩できる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご利用者のご家族と選択して持ち込むようお願いしたり、職員がご利用者と一緒に居心地がよい居室作りを目指している。	「自分らしい居室づくり」がイメージできる写真入りのリーフレットを見た家族が馴染みの家具をアレンジしてくれたり、ミシンが置かれた部屋の利用者は、三角巾や共有空間で使う布小物を作ってくださいます。桐箆筒、冷蔵庫と、まるでアパートのような間取りで居心地の良い環境を演出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の安全に配慮しながら、見当識に働きかける工夫や、ご利用者自身が、自分でやりたいことの用意ができるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜 (2階)		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kanietue&JigyosyoCd=2297200350-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の自立支援に力を入れています。認知症であるからと言って、今まで獲得した力は、発揮できるはずであり、「できる」という視点からアセスメントをし、出来ない部分に着目してその部分のケアを生活支援として行ないます。環境整備では、他者から死角になる空間を設けるなどして、認知症の方に配慮したホーム作りをしています。また職員もご利用者も家族も楽しいホーム作りをめざし、昨年度よりさらに行事に志向を凝らしています。運営推進会議には、前年より、多くのご参加をいただけるよう日程の調整をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の社会福祉協議会の依頼を受け、介護予防体操「ふまねっと」を通じて認知症予防に貢献しています。「ふまねっと」運動は龍山地区で隔月、浜北区で四半期に1回、今後は浜松市南区も予定され、問い合わせも続々とあり、広がりをもっています。また二俣地区には認知症デイサービスが無く、事業所として「共有型デイサービス」を開始したことも地域の役に立つ事業として期待が膨らみます。利用者の目に入りやすい位置に当日勤務の、職員の顔写真と名前が記載されたホワイトボードがあり、その職員が今日「入浴」や「歩行訓練」等「何を担当するか一目で分かる」ようになっている例をはじめ、きめ細かな工夫に秀でている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の休憩室に掲示したり、職員全体会議などでその都度、示したり取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草取りや、防災訓練に参加したり地域お祭りの青年部や自治会を通して、交流する機会が増えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防体操「ふまねっと」を通じて、地域の社協の依頼を受け認知症予防に貢献しながら、認知症の理解をうながしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への出席依頼を多く出すことにより、多くの方が会議へ出席していただけるようになった。情報公開と、意見交換の場として開催し、地域交流の場としてサービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所、消防署など必要に応じて緊密に連絡を取り、協力関係を築く努力をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会を通じて理解を深め、不適切なケアの具体的な例を掲げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ研修会を通じて高齢者虐待の中身について検討し、防止に努めている。また職員の声を聞いたり、無知により、気づかず虐待を行ってしまうことがないよう職員に説明するなど防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業についてはまだ説明できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やその前段階において丁寧な説明と内容を明らかにした書面を交付することにより、ご理解ご納得いただけるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社で行われるご家族アンケートや、ホーム玄関に設けたご意見箱、運営推進会議等において、ご家族の意見を把握し運営に活かす努力をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に行事の内容の検討や意見を求め、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善や職員の福利厚生を改善し、環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議や、ユニット会議、またOJTを通じて、説明するきかいを設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に限らず、ご家族や、以前ご利用のサービス事業所に情報をもらうなどしながら、ご本人理解に努めてごほんにんとの信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困りごとなど傾聴につとめ、具体的なサービスに活かすことができる様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の不安や困りごとなど傾聴につとめ、具体的なサービスに活かすことができる様関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が共有スペースにて他のご利用者とのよい関係を築くことができるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からご家族の状況など聴きながら、ご恩人の勤務表に配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族からご希望をお聞きしながら、人や場所との関係の計億ができるよう支援する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に注意を払い、席や外出支援などにてご利用者同士が自然といい関係になれるよう努力する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じてご相談いただけるよう配慮しながら、支援する体制を用意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の場面で発していただけのお言葉や行動の分析より、ご本人の意向や好みを探る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、私の暮らしシートなどを活用し、これまでの生活歴や性格や価値観などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの状態やご気分により、自由に過ごしていただけるよう申し送りやバイタル測定ご本人のアセスメントなどを行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ご利用者様の居室担当が作成した気づきシートやアセスメント表を元にカンファレンスを行い、チームとしてご利用者を支援するための計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人記録やモニタリングを毎日行い、ケアの振り返りや職員間の情報共有に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応するよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や公園、図書館、ストアなど把握しているがまだ不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の今までの治療経過の継続、かかりつけ医との関係などから、継続した観察ができるよう家族との連絡を密にしながら、医療支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回～3回の勤務時には、看護師によるバイタル測定や測定結果の分析を行い、必要な医療を適切にうけていただけるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院時は、ご家族、病院のSW、NSとの情報交換に努め、必要に応じた支援ができるよう努力している。また病院との関係作りに努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関するホーム内のできることを丁寧に説明に努め、ご家屋のご希望、また医療関係者との連携に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応について会議等において説明し、周知している。またそのケースに応じての対応についてその時必要な対応についてかくにんをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域より、避難場所についての連絡体制が整備され、運営推進会議等にて地域連携のお願いなどを模索している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重を重視し、尊厳をもって介護することを重視している。声掛けや、プライバシーに配慮したケアのため、職員同士で注意できる環境について取り組みを始めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向をきいて差し上げる様、傾聴や受容に努め、ご利用者が選択できるような配慮と支援、また自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務フローなどを見直し、ご利用者のご希望にそえるような支援体制の構築に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みに応じた衣類が選択できるよう支援し、みだしなみを整えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や盛り付けをしたいご利用者が皆参加できるよう配慮し、職員と一緒に配膳できるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の体重測定を行い、また医療情報などを参考にしながら、ご本人の食べられる量や、ADL、可動域など様々な視点から状態把握に努め、必要な支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行い、必要に応じて用具を揃え、その人に合った支援と口腔内観察を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	そのご利用者の歩行能力や排泄昨日などアセスメントを行い、安易に紙おむつの使用をせずトイレで気持ちよく排泄できることを重視している。またその支援に努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整えるフェカリス菌などを使用しながら医師との連携、また乳製品など取入れたり、適度な運動ができるようプログラムに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、ご本人が入りたくなるような声かけや環境に配慮している。ご本人様の意向に沿って順番や時間など配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の意向に沿った入床支援を行い、ご利用者が安眠安全に眠ることができるよう温度、光などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者おひとりおひとりの薬の内容について薬情書などにて確認をしている。服薬支援は決められた方法にて行い、wチェックの体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の役に立つ喜びを感じて頂きながら、生きる糧にし、保有能力、認知機能の低下を防ぐことができるよう支援している。ストレスの軽減が図られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべくご本人のご希望に沿って外出できるよう支援している。必要に応じてご家族にご相談をかけながら出かけられるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者がお金をご自身で払うことができるよう、ご本人に働きかけを行っている。また決まった金額の範囲で自由に使うことができるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者のご希望により、手紙を書いたり、ご家族に自由に話したりしている。またご希望があれば、職員が仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場としてふさわしい明るく清潔な空間であるよう配慮しながら環境整備を行っている。季節感を感じていただけるよう掲示物を変えたり、見当識に働きかける配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下側にソファを置いたり、廊下の途中で休憩できる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご利用者のご家族と選択して持ち込むようお願いしたり、職員がご利用者と一緒に居心地がよい居室作りを目指している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の安全に配慮しながら、見当識に働きかける工夫や、ご利用者自身が、自分でやりたいことの用意ができるよう配慮している。		